

1. 件名：「泊発電所3号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（133）」

2. 日時：令和4年4月11日（月）10時00分～12時10分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、松末技術参与、磯田係員、杉野統括技術研究調査官、道口主任技術研究調査官、山下技術研究調査官
北海道電力株式会社：藪執行役員 他7名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（日本海東遠部に想定される地震に伴う津波）
- ・泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（日本海東遠部に想定される地震に伴う津波）（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	規制庁タニです。
0:00:05	時間になりましたので、ヒアリングを始めたいと思います。本日のヒアリングの案件としては、泊発電所3号炉、基準津波に関するコメント回答。
0:00:14	日本海東縁部に想定される地震に富ん地震、地震に伴う津波ということで、まず資料の説明の方北海道電力からお願いします。
0:00:27	はい。北海道電力のマツムラです。
0:00:30	今谷さんからございました通り基準津波についての、
0:00:34	昨年12月24日の審査会合を踏まえたコメント回答、説明させていただきます。説明はアオキから説明時間は30分程度考えてございますよろしくをお願いいたします。
0:00:50	北海道電力のアオキです。
0:00:52	説明させていただきますと本日資料の方に種類提示させていただいております、分厚いほうが本資料、薄いものが補足説明資料というところで解析結果をまとめたものの2種類を用意してございます。
0:01:07	とそのうち分厚いほうの本資料で説明させていただきます。
0:01:11	ご説明は前回会合からの主な変更点というところで要点を絞って説明させていただきます。
0:01:18	ページめくっていただいて2ページをお願いいたします。
0:01:22	こちら本日の説明概要となっております、
0:01:25	スライドの中段に津波評価の全体のフローを記載させていただきます。
0:01:30	と今回のヒアリングでは、朱書きの日本海東縁部に想定される地震に伴う津波について説明させていただきます。
0:01:38	続いて3ページから、
0:01:40	5ページにかけて、前回会合からの主な変更点というところで、三つまとめております。
0:01:47	そのうち3ページお願いいたします。
0:01:50	今回の説明の、
0:01:52	要点としまして一つ目に基本地形の変更についてご説明させていただきます。
0:01:58	一つ目のマル。
0:02:00	令和4年3月3日の審査会合における指摘を踏まえまして、新設防潮庭の海側に残置する敷地北側防潮堤内部の建屋防潮堤に対する、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:12	内部の建屋については、防潮堤に対する定量的な影響評価の実現が困難という判断に至ったことから撤去することに方針を変更してございます。
0:02:23	また防潮堤に対する津波時の車両の影響を考慮し、防潮堤乗り越え道路については設置しないことしております。
0:02:32	これらの方針を踏まえまして津波の解析評価では、敷地北側防潮庭等をなしとした地形を基本地形としまして、今回の資料を整理してございます。
0:02:43	具体的には、※1 令和3年12月24日の審査会合における敷地北側防潮堤の損傷状態①を今後の発電所の基本地形とすることしております。
0:02:57	また、この地形にしますので解析結果についても、この知見を用いて今回整理してございます。
0:03:04	なお、令和3年12月24日の審査会合において、敷地北は防潮低等の損傷による波源選定への影響がないことをすでに確認しておりますので、
0:03:15	この変更によって波源選定に変更は生じてございません。
0:03:19	またスライドの下段に変更前後の地形モデルを掲載してございます。
0:03:25	続いて4ページをお願いいたします。
0:03:29	こちら主な変更点の二つ目の内容となっております、波源位置、西側の検討を前回会合から追加してございます。
0:03:38	その一つ目の丸、防波堤の損傷考慮した地形モデル①と北防波堤と南防波堤が両方ないものについては、概略パラメータスタディの結果として、断層パターン1、
0:03:51	3号炉取水口上昇側の最大ケースの波源モデルに選定されております。
0:03:57	この断層パターン1において3号炉取水口の水位変動量が大きくなる理由について、津波の伝播状況等から考察しました。
0:04:07	また、断層パターン1については、想定波源域の西側に位置することから、
0:04:12	さらに西方向に波源位置を移動させた場合に津波水位が大きくなることは想定されます。
0:04:18	また、日本海東縁部の特性整理で想定した日本海東縁部の範囲については、一部区間においてこの断層パターン1に対して西側に位置してございます。
0:04:29	これらの状況を踏まえて断層パターン1をさらに西方向へ移動させた場合の検討を追加実施いたしました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:37	この対象とした波源モデルについては、矩形モデル及び区野地モデルの二通りとし、その移動量については、2.2章で整理しました日本海東縁部の範囲を、
0:04:47	余裕を持って網羅できる配置になるように設定してございます。
0:04:52	これを踏まえてパラメータスタディを実施しましてその結果、防波堤の損傷を考慮した地形モデル 013 号炉取水口の上昇側の最大 8 ケースの波源モデルは、
0:05:02	令和 3 年 12 月 24 日の会合から説明した内容から変更が生じてございます。
0:05:08	その変更内容については、スライド下段の右側に、
0:05:12	掲載してございまして、
0:05:14	透水変動量、9.30、断層パターン 6 の東へ移動させたケースのものから変更後ですと、水位変動量は 9.37 メーター。
0:05:24	断層パターン 1 の黒字モデルで西へ移動させたものに変更が生じてございます。
0:05:31	このスライドで説明した詳細な内容については、各ページのところで説明させていただきます。
0:05:37	5 ページ飛びまして 320 ページをお願いします。
0:05:50	藤 320 ページでは、補足説明の位置付けて、断層パターン 1 の分析という章を今回新規で追加してございます。
0:05:59	321 ページをお願いいたします。
0:06:03	こちらは検討方針についてまとめたスライドになってございます。
0:06:07	この概略パラメータスタディでは、土木学会に基づく探査パターンを用いて検討しておりまして、下限値が泊発電所に近づくことで津波水位上昇側加古川がともに大きくなることから、
0:06:20	概ね断層パターン 6 と 7 のケースが選定されております。
0:06:24	一方、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の 3 号炉取水口上昇側においてのみ、西側に位置します断層パターン 1 のケースが選定されております。
0:06:36	これらを踏まえまして断層パターン 1 における最大水位上昇量分布、
0:06:41	3 号炉取水口水位時刻歴は計及び津波の伝播状況を確認しております。
0:06:48	5 ページめくっていただいて 322 ページをお願いします。
0:06:54	こちらでは最大水位上昇量分布と、主、時刻歴は形を比較したものでございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:01	下段のスライドに健全地形モデルのものと、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の結果を掲載してございます。
0:07:10	また、
0:07:11	中段には水位上昇量分布、右側には水位時刻歴は形をそれぞれ並べて掲載してございます。
0:07:18	そこで防波堤の損傷を考慮した地形モデル①においては、
0:07:22	当地震発生後 34.8 分で水位低下が生じましてその後の水位上昇において 3 号炉取水口において局所的かつ一時的に水位変動量が大きくなっております。
0:07:36	時刻歴は形見ますと、と最小値と最大値をそれぞれ数字書いておりましてその様子、34.8 分で最小値、
0:07:45	34.99 で最大値になっていることがわかるかと思えます。
0:07:49	また、
0:07:51	水位上昇量分布を見ますと、こちらコンターの凡例を見ますと、青色のものがおおよそ 4、4 メーターから 5 メーター前後のものになっておりますが、
0:08:02	この引き出し線が書いておりますところは 3 号炉取水口になっておりましてこの地勢においては、
0:08:07	8.98 メーターと、この部分において局所的に水位が大きくなっていることは、この分からわかるかと思えます。
0:08:16	なお健全モデルにおいてはこのような水位上昇の傾向はないというところを確認しました。
0:08:22	続いて、323 ページをお願いいたします
0:08:28	こちらでは先ほどと同様に防波堤の損傷を考慮した地球モデル②と③、それぞれ南防波堤なしの場合と北防波堤なしの場合を比較しております。
0:08:40	ここで下段に書いております③については、
0:08:44	先ほどの①で説明したように、スリー低下後の水位上昇によって最大値が出ていると。
0:08:52	局所的かつ一時的に水位変動量が大きくなることを確認いたしました。
0:08:57	また②の地形モデルについては、健全地形モデルと同様に、このような上昇が発生していないところを確認いたしました。
0:09:06	これらの結果を踏まえて、
0:09:08	324 ページ以降で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:11	津波の伝播状況というところでスマップ書等を並べてございます。
0:09:16	藤 324 ページ、こちらは健全地形モデルのスナップショットをまとめたものになっております。
0:09:23	このうち左上のものが 3 地震発生後 34.0 秒のところになっておりまして、
0:09:29	引き波後の押し波の津波は、西から東へ伝播してきております。
0:09:35	ここで 34. 30 秒。
0:09:37	この地形モデルでは北防波堤がありましてその北防波堤で反射すること で、
0:09:44	構内防波堤の中側に対しては、津波の流入が阻害されていることが確認 できております。
0:09:51	続いて 325 ページをお願いいたします
0:09:57	こちらは防波堤の損傷を考慮した地形モデル①のスナップショットを並 べたものになっております。
0:10:03	34.0 秒、これは先ほどと同様に津波が西から東へ伝播してきておりま す。
0:10:09	その後 34. 30 秒。
0:10:12	北防波堤がないために、構内防波堤の内側のところに津波が流入しまし て、その後 34. 40 秒以降、
0:10:21	護岸に沿って北西から南東へ津波が伝播する様子がスナップショットか ら確認できております。
0:10:28	とその後 34 分後 15 秒のところを見ますと、
0:10:34	と 3 号炉取水口の形状により水位が増幅することで、
0:10:38	この位置で局所的かつ一時的に水位変動量が大きくなることを、このス ナップショットから確認できました。
0:10:46	本当はこの現象については防波堤の損傷を考慮した地形モデル③でも同 様な現象が発生しておりますが、
0:10:52	この 01K の方はより顕著に水位が上昇しております。
0:10:57	続いて 326 ページ、お願いします。
0:11:02	こちらは南防波堤がない②地形モデルになりまして、
0:11:07	こちらは北防波堤があることで、構内への流入は阻害されております。
0:11:12	先に説明した健全地形モデルと同じような現象です。
0:11:15	327 ページお願いします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:19	こちらは北防波堤だけがないケースになっておりまして、こちら防波堤①と同じような水位上昇のメカニズムとなっております。
0:11:29	これらのまとめが 328 ページに掲載しております。
0:11:35	この矢印の下側のテキストボックスをご覧ください。
0:11:41	と防波堤の損傷を考慮した地形モデル①及び防波堤の損傷を考慮した地形モデル③においては水位低下後の水位情緒によって、3号炉取水口において局所的かつ一時的に水位変動量が大きくなることを確認しました。
0:11:57	西から東へ伝播する津波については、北防波堤がないため構内へ流入し、護岸に沿って北西から南東へ津波が伝播し、
0:12:06	3号炉取水口の形状によって水位が増幅することで、局所的かつ一時的に水位変動量が大きくなります。
0:12:13	ここで③地形と比較して 01K の方はより顕著に水位が上昇しております。
0:12:19	なお不健全地形モデル、防波堤の損傷を考慮した地形モデル②においては、西から東へ伝播する津波が来た防波堤があるため、
0:12:27	構内の流入が阻害され、このような水位上昇は発生しないというところを確認しました。
0:12:34	ここまでが伝播状況の確認となりまして 120 ページ、お願いします。
0:12:54	120 ページでは、詳細パラメータスタディのステップ 3 は現位置の検討についての説明ページになってございます。
0:13:04	これは断層パターン 1 をニシキ方向移動させる根拠について説明しております。
0:13:09	とスライドの下段に三つ表はまとめておりましてこのうち一番右側、
0:13:15	のオレンジのハッチングがかかっております防波堤の損傷を考慮した地形モデル、013 号炉取水口上昇側をご覧ください。
0:13:24	この防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の 3 号炉取水口上昇側においては断層パターン 1 のケースが選定されております。
0:13:32	とこれと同じ傾斜角であります段差パターン 1 と段差パターン 5。
0:13:37	を比較しますと、西側に位置しております断層パターン 1 の方が水位変動量が大きくなっております。
0:13:45	この理由から、西井移動させた場合に、水位変動量が大きくなるということが確認できますので、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:51	ステップ3の波源位置の検討においては断層パターン1をさらに西方向へ移動させるということにしております。
0:13:59	続いて121ページをご覧ください。
0:14:04	先ほどと同様に断層パターン1と断層パターン2を比較した図を掲載しております。一番右側ですね。
0:14:12	こちらを見ますと、断層パターン2と比較して断層パターン1のほうが水位変動量が大きくなっております。
0:14:19	それから傾斜角60°であります断層パターン1を、
0:14:23	に移動させ、検討対象としております。
0:14:27	続いて126ページ、お願いします。
0:14:36	ここでは西へ移動させる移動量について説明したスライドになっております。
0:14:42	断層パターン1の矩形モデルについては、西へ20キロメートル移動させた場合に、2.2章で想定した日本海東縁部の範囲を余裕を持って網羅できる。
0:14:53	配置となりますので西への移動量は20キロメートルに設定しております。
0:14:58	この移動量の考え方については、
0:15:01	前のページの、
0:15:04	122から125にかけて、
0:15:08	東方向へ移動させたものの考え方と整合させて整理してございます。
0:15:15	127ページお願いします。
0:15:18	こちら断層パターン1の9の字モデルの西への移動について説明してるページとなります。
0:15:25	奥野地モデルについては、30キロメートル西方向を移動させた場合に、余裕を持って網羅できるという考え方から西30キロメートル移動してございます。
0:15:37	この結果は172ページをお願いします。
0:15:50	あと172ページでは、パラメータスタディ結果として、ステップ3の、先ほどの波源位置を説明しましたがそのパラメータスタディの結果、
0:16:00	から出てきました最大ケースをまとめたスライドになっております。
0:16:04	このうちオレンジ色でハッチングかけているところについては、3号炉取水口の最大ケースをまとめたものになっておりまして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:13	最大ケースとしては断層パターン1の区野地モデル、西井移動させたものに30キロメートル移動させたもの。
0:16:20	が最大ケースとして選ばれておりましてその水位変動量は9.37メートルになっております。
0:16:27	選ばれたケースについては前回会合から変更された波源モデルとなります。
0:16:33	続いて173ページをお願いします。
0:16:38	面ステップ3の最大ケースに対して断層面上縁深さをパラスターした結果の最大ケースを掲載しているものになります。
0:16:47	こちらオレンジ色のハッチングのところになっておりまして先ほどの、
0:16:51	断層面上縁深さ1から、
0:16:54	パラスターを実施したんですが1キロメートルが最大となっております水位変動量は9.37メートル。
0:17:00	のものが最大で選ばれております。
0:17:02	ところから208ページをお願いします。
0:17:12	208ページでは、日本海東縁部に想定される地震に伴う津波の最大ケースの一覧をまとめたものになっております。
0:17:21	ここでオレンジ色でハッチングをかけている箇所については、
0:17:25	これまで説明してきたステップ様の最大ケースとしまして、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の3号の取水口上昇側については評価値が9.37メートル。
0:17:37	断層パターン1の黒字モデルにして移動させたものを最大ケースとして日本海東縁部の最大ケースに抽出してございます。
0:17:46	ここまでの波源位置西側の検討に関する説明となりまして、
0:17:51	また説明概要の5ページに戻っていただくようお願いします。
0:18:06	5ページでは、主な変更点として三つ目の説明となりまして、処理率を下回る時間に着目したパラメータスタディを今回追加してございます。
0:18:16	当然、これまで、前回の会合までについては、水位変動量に着目したパラメータスタディ結果に基づき、
0:18:24	貯留堰を下回る時間の確認を行ってききましたが、Ⅲ変動量が最大となる波源と、
0:18:30	貯留堰を下回る時間が最大となる波源は完全に一致していないということにかんがみまして、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:36	ポンプの取水性を評価するための波源選定を目的としまして、
0:18:41	貯留堰を下回る時間に着目したパラメータスタディを今回追加で実施いたしました。
0:18:47	このパラスターの実施にあたっては、ポンプの取水性を保守的に評価する観点から、
0:18:52	種類を下回る時間として、貯留堰を下回る継続時間と、パルスを考慮しない時間の二通りを評価しまして、それぞれの最大ケースを日本海東縁部に想定される地震に伴う津波の最大ケースに追加しました。
0:19:09	とまたはパルスを考慮しない時間の評価については、ガイカイ水の一時的な水位上昇による、
0:19:15	処理できないの水位回復への影響を確認した上で、水位回復が見込めないと判断される場合については、
0:19:22	この一時的な水位上昇量、パルスを考慮せずに下回る時間を合算いたしました。
0:19:28	その下段に変更前後のパラスタのフローを書いておりまして、
0:19:32	パラスタのフローについては、
0:19:34	大きく変更してございません。
0:19:37	年書きで書いております着目点というところで、処理時期を下回る時間として継続時間とパルスを考慮しない時間の二つに着目してパラスタを実施したという結果について今回取りまとめております。
0:19:52	その詳細な説明としまして、156 ページお願いいたします。
0:20:06	156 ページでは、貯留堰を下回る継続時間の算出方法について説明したスライドになってございます。
0:20:15	この下段には形を変えておりまして、この貯留堰の天端高さ TP - 4.0 メーターを下回るは形が例えば二つある場合については、
0:20:26	頭、もしくは B の大きい方を採用するという考えで貯留堰を下回る継続時間を整理してございます。
0:20:33	これについては前回の会合から変更してない、変更がないという算出方法になります。
0:20:40	あと 157 ページをお願いします。
0:20:44	ここではパルスを考慮しない時間の説明ページとなります。
0:20:48	このパルスを考慮しない時間については今回新たに設定したのになります。
0:20:52	一つ目のマル。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:54	ガイカイ水の一時的な水位上昇による貯留できないな水位回復への影響を確認するため、
0:21:00	ガイカイ水を一定値、TP-3メーターとした場合の処理できないの水位回復に関する感度解析を実施いたしました。
0:21:09	その感度解析の条件及び結果については、スライドの中段の、
0:21:14	ネットワークの中で、家まとめております。
0:21:17	の枠の中をご覧くださいと、まず貯留堰から取水ピットの縦断面図が掲載してございます。
0:21:24	またその下に感度解析の条件として表が書いておりまして、
0:21:29	ガイカイ水位については、ピンク色のTPマイナス3.0メーターに設定してございます。
0:21:35	ところの根拠としましては、一定値を仮定しておりまして、
0:21:39	この3号炉貯留堰の天端高さTP-4メーターから有意な流入量がえられるように天端の高さから+1メーターに設定してございます。
0:21:51	また、周期の距離できないら水についてはTP-4.30メーターに設定してございます。
0:21:58	ところの根拠については、
0:22:01	3号炉取水口前面の、
0:22:03	岩井海水は処理堰の天端高さを下回って600秒間、
0:22:08	ポンプが稼働し続けた場合の推移になってございます。
0:22:12	この600秒の根拠にします根拠としましては、注利益を下回る継続時間のパラスタの結果の最大値となります。558秒を踏まえて設定しております。
0:22:24	この558秒については後程また詳細に説明させていただきます。
0:22:29	当庫のガイカイ水と貯留できないのは初期水位の、
0:22:34	条件のもと、感度解析を実施した結果は右側のグラフに書いております。
0:22:39	縦軸がポンプ位置の推移となっております横軸は時間でとっております。
0:22:45	当該海水はTP-3メーター。
0:22:48	初期の貯留できないな水はマイナス4.3メーター。
0:22:51	こちらで感度解析実施したところ、26秒経過した時点で、貯留堰の天端高さまで水位が回復いたしました。
0:23:00	この26秒で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:02	ポンプ1の水位が回復しますので、アンゼンガワニ30秒で水位回復すると設定してございます。
0:23:10	この間の解析結果を踏まえて、パルスを考慮しない時間について算出方法をまとめたものが下段でまとめているものになります。
0:23:18	大きく二通りの場合があると考えておりまして左側の方をご覧ください。
0:23:24	の一時的な水位上昇時間のうち、ガイカイ水が処理堰の天端高さ1メートル上回る時間。
0:23:31	この緑色のラージA、
0:23:33	30秒未満の場合については、この葉系をパルスと判定しております。
0:23:38	とパルスというところは、貯留できない熱水が回復しないというところと同じ意味になります。
0:23:47	このラージAで取りできないの水位が回復しませんので、
0:23:50	この下回る時間であるスモールAとスモールBを足すことでパルスを考慮しない時間というふうに算出してございます。
0:23:59	一方右側の場合、
0:24:01	このラージAが30秒以上の場合については、
0:24:05	上回る剥離によって貯留できないの水位が回復しますのでパルスとしないというところで、
0:24:12	貯留堰を下回る継続時間と同じ値を採用しましてスモールAとスモールBのうち、大きい方を採用すると、いった形でパルスを考慮しない時間を整理しております。
0:24:27	続いて159ページお願いいたします。
0:24:33	これは例としましてパラメータスタディの結果のStep1-1の結果をまとめたスライドになります。
0:24:40	このうち右側から二つ目と三つ目については、貯留堰を下回る継続時間の最大ケース。
0:24:48	パルスを考慮しない時間の最大ケースを掲載してございます。
0:24:52	この通り各ステップにおける、この二つの観点から最大ケースを抽出していきまして、
0:24:59	158から190ページに、これステップ1からステップ4までの結果をまとめておりますがこの二つに着目して、パラメータスタディをどんどん実施して最大ケースを選定してっております。
0:25:12	その結果が208ページ、お願いします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:27	208 ページは日本海東縁部で想定される地震に伴う津波の最大ケースの一覧をまとめたものになっております。
0:25:35	先ほどのパラスタのステップ1 からステップ4 の結果を踏まえて最大ケースをここに抽出しております、
0:25:42	そのG e l l e r 一番下側から一つ目と二つ目のところで、処理歴を下回る継続時間とパルスを考慮しない時間の最大ケースを抽出してございます。
0:25:52	この数字で言いますと一番左側の健全地形モデルのもので558 秒という結果が出ております。
0:26:00	これ下回る継続時間とパルスを考慮しない時間の二つに、の観点が着目した結果同じ波源が選定されまして558 秒という同じ数字が採用されております。
0:26:14	続いて、221 ページをお願いいたします。
0:26:21	ここではパラメータスタディ評価因子の影響分析を実施しております、
0:26:27	右側の二つ、書類づけを下回る継続時間とパルスを考慮しない時間についても、水位変動量と同様に、パラメータスタディの評価因子の影響分析を実施してございます。
0:26:39	その一番下にグラフ書いておりますが、時間の変動幅については、
0:26:44	当パラスタの結果一番大きくなるものと一番小さくなるものの差分というところで変動幅を算出しております。
0:26:52	これらを全ステップ実施して変動幅をまとめたものが、278 ページ、お願いします。
0:27:07	こちらのページでは先ほど説明した変動幅をまとめたページになっております。
0:27:13	表中の上段が貯留堰を下回る継続時間でまとめたもの、下段がパルスを考慮しない時間でまとめたものになります。
0:27:21	テキストボックスのところの一つ目のマル。
0:27:24	低下時間の変動幅については、水位の変動幅と比較して地形モデルごとにばらつきが大きいというところから、大局的な傾向を確認するために、
0:27:34	地形モデルごとの値を平均化した上でパラメータスタディ評価西の分析を実施しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:42	そのパラメータスタディの評価因子が低下時間に与える影響については、以下の通りというところで三つ矢羽根にまとめております。
0:27:50	と貯留堰を下回る継続時間では、概略パラメータスタディ評価因子であります。
0:27:55	パラメータ Asperity 数及び位置の変動幅が最も大きく低下時間に与える影響が最も大きいです。
0:28:04	このパルスを考慮しない時間については、
0:28:07	概略パラメータスタディの因子であります東西方向位置傾斜角及び傾斜方向、
0:28:12	いわゆる断層パターンによる変動幅が最も大きく低下時間に与える影響が最も大きいです。
0:28:20	最後に詳細パラメータスタディの因子であります、波源位置、断層面上縁深さは、
0:28:26	概略パラメータスタディの因子と比べて低下時間の変動幅が小さい傾向がありまして、低下時間に影響与える影響は小さいと考えております。
0:28:36	残りの 2.7. 2 章のアスペリティモデルの保守性確認や、
0:28:42	断層パターン 5 東移動の検討についても、
0:28:45	下回る時間の観点から評価しておりますが、結論についてはこれまでと変更がありませんので説明は割愛させていただきます。
0:28:54	全体の説明は以上とさせていただきます。
0:29:02	はい。
0:29:03	規制庁タニで説明ありがとうございました。
0:29:06	それでは資料の内容の方、確認に入りたいと思います。
0:29:13	まず私の方からなんですけれども、
0:29:16	これ
0:29:17	今回、
0:29:21	前回の会合が 12 月 24 日でしたっけそれに対する回答ということで来たんですけど、
0:29:27	これあれですかね 3 月 31 日にも、
0:29:30	北海道電力として会合を実施しているんですけども、その辺を踏まえて、
0:29:36	何かここには反映されているようなことはあるんですかないんですかその辺確認させてください。
0:29:47	北海道電力のオクデラでございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:50	3月31日の会合については、12月24日で、
0:29:55	の時点で、論点となっているようなことに対して我々はこういうことを今、対応していますというような内容だったと思います。
0:30:04	それに関しては、資料に反映されているということで3月31日、
0:30:11	の会合を踏まえてその対応状況が変更となっている事項はございません。
0:30:17	以上です。
0:30:45	規制庁タニですけど。言われてることはわかるんですけどあれですかね3ページの、
0:30:52	今回これは、
0:30:55	北側防潮堤の取り扱いってということで、これ多分初めて聞くんですけども、これは3月31日の会合の指摘を踏まえて、どうこうしたもんじゃなくて、
0:31:06	時系列的にこういったものが入ってきてるけど3月31日とは、これは関係ないんだよっていう、そういった説明ですか。
0:31:19	北海道電力のオクデラでございます。こちらの基本地形の変更については、
0:31:26	3月3日のプラント側の審査会合において当社が検討すると言った内容でして、
0:31:37	その内容については3月31日の資料にはそのプラント側のコメントに対する対応状況として示させていただいております。
0:31:49	なので、何といたらいいんでしょう。
0:31:54	プラント側の審査会合におけるコメントを踏まえて、
0:32:00	その内容を、地震津波側のこの津波の資料に反映させたということで、
0:32:07	3月31日の会合がきっかけで変えているという、というような状況ではございません。
0:32:14	わかりづらくてすみません。
0:32:17	以上です。はい。規制庁タニです私の質問もちょっとよくなかったのかもしれないけれども、もともとだからこの3ページっていうのは、3月31日の会合が、
0:32:27	なくってもこういった説明をするっていう予定で資料はもう作ったたということで、理解しました。はい、わかりました。それで、
0:32:35	今回コメントの回答。
0:32:38	この3ページの内容がきっかけになって、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:44	コメントの回答っていうのは実は、
0:32:47	前回の12月の
0:32:50	審査会合で、ノーコメント以外のことについても、何かいろいろ答えられてるっていうことなのかと思います例えば、
0:33:00	1045ページの、
0:33:04	ナンバー
0:33:05	1だとかNo. 2だとか、
0:33:10	そういったところですね。
0:33:12	これがですねちょっと資料の構成上、何かわかりにくくて。
0:33:20	ちょっと具体的に言いますね。
0:33:25	私の方としてはこの辺のコメントを何でこれを答え1回答してたものを、答え直す必要が出てきたのかっていうのを、
0:33:36	せっかくあの説明概要とかに、
0:33:39	作ってるのでこっちに何か説明をちゃんと入れて欲しいなっていうようなことなんですけれども。
0:33:44	その中でちょっと細かい話になるかもしれませんが8ページの、例えばナンバー1のコメントって、
0:33:52	これは何でこういったのを、
0:33:55	考え直す必要があったのかとかですね。
0:34:03	ナンバー2のコメントは、
0:34:06	そもそももう北側防潮堤の取り扱いが、
0:34:10	もう取り扱いの方針を決めたので、いろんなパターンも考え直す必要がないよっていうことだと思うんですけど。
0:34:18	その辺の何ていうんですかねこ関係っていうのがちょっとわかりにくくて、あと、
0:34:27	どれだったかな。
0:34:30	コメント。
0:34:33	うん。
0:34:36	中には該当するか。
0:34:43	あとはそっか。
0:34:44	No.20、コメントNo.20っていうのは、
0:34:50	あれですかね。
0:34:52	1回答えてただけけれども、さらにあれですよプラント側の審査を踏まえてさらに変更が出てきたんだよっていうような、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:03	こういった12月24日の
0:35:05	この指摘とちょっと、
0:35:07	違うところで、ここ再度コメント回答が必要になってるってところがいくつかあって、その辺をですね、
0:35:17	ぜひわかりやすくですね、最初の方にちゃんと記載していただけたらなというふうに、
0:35:24	思いますけど。
0:35:26	それいいですかね、ちょっとわかりやすくして欲しいっていただけなんですけど。
0:35:34	北海道電力オクデラでございます。こちらの方は、地形を確かに地形を変えたことによって、今の状況を説明するために、今回説明というふうになっており、
0:35:48	そういったことがわかるように、概要の方に反映させていただきたいと思います。以上です。
0:35:57	はい。お願いします。
0:35:58	あとですね、何か行ったり来たりしてるかもしれないですけど3ページで、
0:36:03	ちょっと
0:36:04	だから最初ここ、この地形、基本地形の変更があったことについて説明してるんですけど、
0:36:11	なんかですねこの記載が、パッと読んでよくわからないんですね。これは御社の方の言いたいこととしては3月3日のプラント側の審査会で、
0:36:21	指摘があったから、だから、
0:36:26	北側防潮堤の、
0:36:30	定量的な影響評価の、
0:36:32	実現が困難という判断に至った。
0:36:35	ことから撤去することとしたってというふうな書き方されてるんですけど。
0:36:39	もちろんこの概要私一応聞いてるから、何となく言われることはわかるんですけども、この文章だけ見てもですね。
0:36:47	何かもうちょっと具体的に書いてもらわないと、
0:36:51	御社として何が問題意識として、
0:36:54	これまでこの北側防潮堤って我々ずっと審査してき

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:36:58	きて、それなりに手間をかけてこのこの考慮が必要なのかどうなのかっていうのを見てきたわけなんですけど、何かこういうふうにはパッとこう書かれると、
0:37:08	具体的にじゃあ今まで何だったんだっていうのもありまして、
0:37:12	ここちょっと丁寧にですね、どういう問題意識を、北海道電力として持って、こういう方法に方針になったのか、それ、そのきっかけとしては3月3日の会合でももちろん指摘されてるっていうのはわかるんですけど、
0:37:25	もうちょっとこれ丁寧にですね、書いて欲しくて、例えば今答えて欲しいのは具体的にこの防潮堤に対する定量的な影響評価の実現。
0:37:35	が困難というのはこれ具体的には何を言われていますか。
0:37:51	北海道電力のオクデラでございます。
0:37:54	定量的な影響評価の実現で端的なところで言いますと、仮に防潮底が壊れたときに、どのような形状に具体的になるのかと。
0:38:06	というようなところを特定スルーのが、
0:38:09	難しいなというようなところに考えが至ったと、というようなことを指してございます。
0:38:17	以上です。
0:38:25	はい規制庁タニです。
0:38:27	形がどうなるかよくわからないから、損傷した時の、だから、定量的な影響評価ができないっていうことですか。これなんかあれ、あれじゃ漂流物がどうのこうのという話もあったんですか。
0:38:44	北海道電力のオクデラでございます。漂流物についても議論があっ、
0:38:53	ありましたけれども、このつこと津波に関して言いますと、損壊後の地形というのが、じゃあ具体的にどういうものがあるんだっていうようなところが、
0:39:06	特定できないので、特定するのが難しいなというようなところで、入力津波の地形とかを考えていくときに難しいなというようなことで、
0:39:17	考えてございます。
0:39:20	そう言ったことについて、今ご指摘ありましたけれども、少し具体的に、我々の考えていたところをわかりやすく部分に表現していきたいなと考えてございます。以上です。
0:39:34	はい規制庁タニです。よろしくお願ひします北海道の電力としての考えですね、これしっかり落として欲しいのと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:41	あと次の丸なんですけれども、これもまた、よくわからなく、
0:39:48	記載としてよくわからなくて、結局あれですかねここで書いてることってというのは、
0:39:55	これまで何、これまでどういうケースで検討してたかというのと、
0:40:01	北川北部あり、南部なしっていうのを、
0:40:05	違う、北部あり南部ありっていう健全地形をベースに、評価してたんだけれども、実はもう12月24日の会合では、
0:40:15	この両方なしのケースも、解析結果としてはもう整理してて持ってて、だから、基本ケースみたいなのは変わるんだけれども、
0:40:26	今までの計算結果を用いてやったのでいいよみたいなことがここに書かれてるってことなんですか。
0:40:35	北海道電力オクデラでございます。
0:40:38	おっしゃる通りのことを、を言いたかったところで言葉足りない、いいのかもしれないですけども、いろんなケースを南部赤塚でやっていたのでその中に、
0:40:49	なし、なしというケースも考案されていたので、計算は、影響評価としてやっていたのでそのまま使っていると、そういったような趣旨のことをこの※1※2で表現しているつもりでございました。以上です。
0:41:07	はい。事実関係はわかりました多分これ読んであれって思ったのがあれなんですよね
0:41:13	その辺の今までの検討がどうだったかっていう部分が、
0:41:17	ちょっとこの説明で抜けてて、今までありありで評価してたんだけれども、
0:41:23	なしなしも、解析結果としては持っていたっていうのがちょっと、
0:41:29	わかるようにして、さらに、今回は、
0:41:33	ケースをもう変えるんだよっていうのが、
0:41:36	顔変わってるのか変わってないのかとかその辺もちょっと含めて記載していただけたら、私もわかりやすいかなと思いますのでお願いします。
0:41:48	北海道電力オクデラでございます。今おっしゃったようなところがわかりづらいのかというところを認識いたしましたので、具体的に、
0:41:58	何がどうであったのが今回どうしてどう変わったというような記載となるように検討させていただきます。
0:42:08	規制庁のナグラです。
0:42:09	ちょっと施設側の審査との関係で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:13	一つ目の丸の、
0:42:17	定量的な影響評価の実現が困難とか、
0:42:21	そこら辺の何ていうかな具体的な説明っていうのは、
0:42:25	これ施設側はまだ会合等やっていないので、
0:42:30	ここら辺はちょっと施設側の今後のヒアリングとか介護の予定と合わせてちょっとどこまで記載を明確にするかってのをちょっと考えて考えていただきたいと思います。
0:42:43	それからあとちょっとすいません、私自身この、
0:42:46	3ページを読んだときの解釈がちょっと、
0:42:49	北海道電力の説明とちょっと異なっていたので確認だけさせていただきます。
0:42:55	今回
0:42:57	敷地北側防潮堤の損傷状態として、①の北部なし南部なし。
0:43:05	を、今後の基本地形とすると。
0:43:08	いったところを記載をしているということについては、
0:43:13	これはもう確定条件になるので、基本地形だけを、
0:43:18	考慮してそれぞれ以外の不確かさっていうのはない。
0:43:23	というふうに私は読んだんだけど、これはあれですか評価上は。
0:43:27	基本地形プラス不確かさ地形として、
0:43:31	北部。
0:43:33	北川有井北部有井南部ありという条件も加味した上で、
0:43:39	基準津波等を決めるということの流れについてはこれは、実際はそれはもう不確かさとしてほとんど有り得ないんだけど、波源の想定上基準津波の策定上は考慮すると言ってるんですか。
0:43:58	なんかそういうふうに聞こえたんですがそれを私の勘違いでしょうか。
0:44:03	北海道電力、オクデラでございます。地形自体を、を撤去した地形をつくっていくというような方針ということですので、健全地形というものは考慮をしないという方針でございます。
0:44:17	なし、なしの地形、
0:44:20	作っていくので、それで基本として評価をしていくという方針でございます。
0:44:26	以上です。
0:44:28	わかりました規制庁の名倉です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:30	言ってることはわかったんですけど、そこら辺がですねこの文章上読めないの、
0:44:36	基本、基本地形としても確定条件にしますと、それで不確かさについては、考慮し、今まで考慮してたんだけどこれについては考慮しなくてもいいことにしましたっていうことなんですね。
0:44:48	ということであれば、そこら辺の差分も含めてしっかりと説明をしていただきたいと思います。
0:44:55	これはちょっと谷井が指摘したと全く同じ趣旨になりますけれども、よろしく願います。私からは以上です。
0:45:04	北海道電力オクデラでございます。谷さん、調整官のおっしゃってることの趣旨を理解しましたので、そのように修正させていただきます。
0:45:17	以上です。
0:45:19	規制庁等に念押しでちょっと確認なんですけど
0:45:23	なしなしっていう地形でいくっていうのはこれも確定でいいんですか。これはまたプラント側と、
0:45:30	審査があって確定されるものなんですかそれともほぼほぼ確定っていうことなんですか。ちょっとその辺確認させてください。
0:45:45	北海道電力でございませぬ。プラント側で議論になってました敷地北側の残置する膨張対調定については先ほど口頭のご説明があって申し訳ございませんけれども、
0:45:59	高いする形状とか、漂流物の問題も確かにあろうかと思っておりますので、
0:46:04	それが評価できないっていう前提になって完全撤去するということはもう社内方針として決定いたしましたそれを、
0:46:13	31 日にも、会合で、
0:46:16	出した資料の中にも記載してございますのでその方針は決定ということで、プラントがハザードは両方ともこの方針に基づいて検討を進めていくこととなります以上です。
0:46:29	はいタニです。ありがとうございます事実確認できました要するに 31 日の会合をもって、これは確定だと、北海道電力は持ってるっていうことですね。はい。確認できました。
0:46:44	あと、
0:46:46	引き続きタニですけど、
0:46:48	ちょっとこのコメント回答、コメントナンバーの 1 に関してなんですけど 150 ページで、これ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:56	説明し直してるってということなんですけれども。
0:47:01	この期、
0:47:02	敷地北側敷地北側 B のこの評価時点ですね。
0:47:07	これ、
0:47:09	何か
0:47:11	よくわかんなくなってきたんですけれども、
0:47:14	何か前は、
0:47:16	この防潮庭を、
0:47:18	検討する上での参考みたいな形で、
0:47:26	ここ、こういったご検討もしているんだっていうような話もされてたと思うんですけど。
0:47:31	今回北側の防潮堤全部なくなるんだよっていう、
0:47:35	中で、それでもこの評価地点、影響確認時点っていうのを、
0:47:41	残さなきゃいけないっていうのが、北海道電力の判断なんですか。
0:47:49	北海道電力のオクデラでございます。
0:47:51	今まで敷地北側防潮庭があったので、いろんな方向から津波が来ると。
0:47:59	ああいうようなところを、幅広に網をかけるというようなことで
0:48:07	この敷地北側或いは北川 B というようなものを選定しておりました。今回撤去するんですけれども、
0:48:17	こういったものを今まで考慮してきて、いろんな波源を抽出した上で最後スクリーニングをかけていくというようなことをやっていたものを、今回これをなくしてしまうと。
0:48:29	今までやってた保守的といいますか幅広さっていうものが失われるなという、そういう議論もありまして、これは
0:48:40	いろんな方向から波源が到達するというようなところを、を組み合わせた上で今回、
0:48:47	保守的に評価できるだろうということで影響評価地点としては残してございます。以上でございます。
0:48:57	規制庁谷です。必要と考えられてるのを
0:49:02	同コースして欲しいというところじゃないんですけど、受け、具体的に言うとこれ、後、後でな、何に効いてくるんですかちょっとその辺だけ参考に確認させてください。
0:49:17	当北海道電力のアオキでございます。
0:49:20	日本海東縁部の評価としては最終的に 208 ページの、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:26	最大径室、
0:49:29	208 ページ最大ケースまとめておりました、
0:49:33	これらの区分で書いております防潮堤前面から、
0:49:37	の最大波源を抽出することが最終的な目的と考えております。
0:49:42	これを抽出していく過程にあたっては、先ほどの 150 ページ説明したように敷地北側 A や敷地北側 B で選ばれる波源も含めて、パラスタをしていって最終的にこの防潮堤前面、
0:49:55	の最大ケースを選んで行っております。
0:49:58	その中で、先ほどオクデラから説明ありました通り、
0:50:02	当前の影響確認地点としては幅広に波源を選定していった方が、
0:50:08	最終的な評価としては、防潮堤前面の水位も大きくなる波源が選定できるという意味で、ご指摘と説明しておりましたそういった観点から、この敷地北側敷地下は、
0:50:19	北川 B の影響確認時点は、パラスタの
0:50:23	評価として、影響確認視点としては残していった方がいいというところを考えております。
0:50:29	の説明としては以上です。
0:50:32	はい。規制庁谷です。言われてることが何となくわかったんですけど要するにこれを外してしまうと、パラスタの途中の過程で、今検討しているような波源も、もう検討しなくなって良くなってくるようなケースも出てきて、
0:50:46	ここも検討してた方が、
0:50:49	何て言うんすかね網網を広く張っているんだと。
0:50:52	で、パラスタのステップごとに検討する中で残していったらっていうような考えだから、これは今、今となっても報酬的、
0:51:03	でいいのかよくわかんないですけど、そういった考えから残してるんだと。
0:51:07	ということで一応、そういう考えですかね。
0:51:14	北海道電力オクデラでございます。今谷さんがおっしゃった趣旨のことで残しておりますいろんな波源を抽出した上でパラスタをたくさん行っていった方が最終的に出てくる。
0:51:27	選ばれる波源大きい波源が選ばれるであろうということで保守的と称しておりますその意味で、敷地北側 A B は残しております。以上です。
0:52:02	規制庁のナグラです。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:52:04	もう私施設側の審査をちょっと見てきた関係もあるんですが、それとの関連をちょっとお聞きしたいのは、
0:52:11	やっぱり
0:52:13	今回やろうとしてることの趣旨は、
0:52:15	保守的に波源を選定幅広く選定することによって漏れなく波源を選定、基準津波策定上の影響が敷地への影響の大きな波源を漏れなく選定するという意味合いにおいて、
0:52:29	非常に重要なことをしてるとは思うんですが、一方で評価点を使うことの、何ていうかな効果というか、
0:52:40	そういうものがもし、施設側の観点であるのであればそういう説明もした方がいいかなと思います。
0:52:46	ただ包丁で外側に対してはおそらくアクセスルート保管場所等を設けないということにしていると思うので、
0:52:53	おそらくこの領域を何らかの評価をすることの施設上の意味合いってというのは、施設評価上の意味合いっていうのはあまりないのかもしれないですけど、この辺は何かあるんでしょうか。
0:53:09	北海道電力のオクデラでございます。今、アクセスルート等は、検討中で具体的なことは言えないんですけども、おっしゃる通り外側につくることとかはないので、
0:53:20	そういう意味での評価の意味合いはないということで12、
0:53:26	防潮堤前面に影響の大きい波源を基準津波と選定して選定するために幅広く
0:53:35	下限を、を網羅すると、パラスタの中でですねそういう意味合いだけを持ってございます。その閉んの、今、使うことの効果なんで、北電はここを残しているのっていうところがわかりづらいのかと思いますので、
0:53:51	少しその辺の意味合いを、
0:53:54	わかりやすくするところを検討したいと思います。以上です。
0:54:00	規制庁のナグラです。
0:54:01	繰り返しになりますけれども、これを評価することの目的は、何かという話と、あと、これをやることによる効果。
0:54:12	としてどういうことが期待できるのか、その時に施設側の評価として、何らかの形で使う用途があるのかどうかについては今後検討していただきたいと思います。これは意味合いを説明する上で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:26	どれだけ重要なことをやっているのかということの説明の趣旨になると 思います。
0:54:31	おそらく、使いようによっては、例えば遡上域の
0:54:37	津波のハウスによる荷重とかそういったものを算定するときの参考になる データとなる可能性はあるし、そういったところの可能性も含めてで すね。
0:54:49	効果を説明できるようにしていただきたいと思います。以上です。
0:54:58	北海道電力のオクデラでございます。ご指摘を今の下、や議論をも踏ま えてですね、
0:55:07	少し効果等についてどういったことがあるのかと、
0:55:12	社内で検討させていただきたいと思います。どう表現するかということ も含めてですね。
0:55:18	以上でございます。
0:55:24	規制庁サグチですけども、ちょっと関連して念のため、
0:55:27	確認させていただきます。
0:55:30	これまで聞いてますけど 148 ページで、評価点というのを設けていて、 今ほどちょっと話題になった 150 ページで影響確認してあるんですけ ど、
0:55:42	148 ページの評価って見ると、これ、
0:55:46	防潮堤より内部って一切評価点ないんですけど、当然他のサイトです と、
0:55:52	防潮堤の中に評価点をいろんな例えば取水槽とかですね。
0:55:57	そういったものが、評価点として加えられたりしていて、137 ページと か見ると、当然防潮堤の中にも、これ、津波防護施設っていうのはある わけなんですけれども、
0:56:10	これ、あくまでも今後のその入力津波というの策定というところの観点 で、
0:56:18	この防潮堤の中には一切この評価地点を設けなくていいのかどうか。
0:56:25	ていう、ちょっとその、
0:56:26	今後の入力津波っていうあくまでも観点ですけど、そこをちょっと確認 をさせていただきます。
0:56:36	北海道電力のオクデラでございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:39	今、中もおっしゃる通り、評価地点といいますか、そういうポイントにおいて、S Eがどのようになるのかというのは、入力津波の段で、どのぐらい水位が上がる。
0:56:52	下がるというのを確認しないと、わかってこない部分がございます。そういった意味で、その入力津波の検討の中で具体的な数値が出てきた段階で、
0:57:04	これこれが津波防護施設になるならないということが決まってくるので、そういったまとめ考察については、耐津波設計方針の檀の方で検討しようと考えてございました。以上です。
0:57:31	はい。規制庁サグチです。考え方はわかりました。ちなみになんですけど、もちろん
0:57:37	企業間の差異と何かその膨張てより、何かの部分の
0:57:47	評価点にしているところとしてないってこと当然、いろいろあるんですけどまず御社の考えかどうかっていうのをちゃんと確認させていただきたいのと、結局ですね、
0:57:56	例えばその中に評価点を設けるのであれば、当然この、
0:58:00	中の評価点も、
0:58:02	波源選定の、
0:58:04	多分、
0:58:07	何て言うんすかね。
0:58:08	その選定をする際の基準となるような評価点ってなる
0:58:13	けど、
0:58:13	当然で、だからその、
0:58:15	外では、
0:58:17	防潮堤若生さんさ、いろんなその取水口ではこうだったっていうのはあるんですけど、
0:58:23	もしその、
0:58:24	中に、
0:58:26	除水層とかそういうものも、もし評価点として本当に必要になってきて、それによって、
0:58:33	波源が、例えば最大となる波源が変わると、というような可能性も、
0:58:38	よくわからないんですがあるかもしれないんですけど、その辺りを、
0:58:43	まず御社としてどのように考えて

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:58:47	あと、実際に例えば何名かあって、島根とか一だったら例えば何か一律で膨張して一番高い。
0:58:55	津波の高さを大仲のものに
0:58:58	入力、入力津波側の高田
0:59:01	です。
0:59:02	しますみたいなのが多分あった
0:59:05	その辺り言って、御社としてはちょっとどう考えているのかなっていうので確認をしたかった。
0:59:22	出席。
0:59:23	北海道電力のオクデラでございます。
0:59:26	今、
0:59:28	当社の
0:59:29	評価地点として 148 ページ目をご覧ください。
0:59:36	中の方に、流動する津波と流入する経路としては、
0:59:43	市 3 号炉取水口、
0:59:46	或いは放水項 3 号の審査で言えば、放水高、
0:59:51	あと、12 号の取水口も、そうですね。
0:59:56	中に流入する経路となりますので、この上昇がここがともに最大のものをピックアップして波源を選定していくという観点では、
1:00:09	なカーに対して影響の大きい者に対してケアしているというような考え方でございます。以上です。
1:00:19	はい。規制庁、サグチですけど考え方はわかりましたので、基本的にはその中の、に入り込んでいくものも含めて今のこの評価地点で見れば十分だという、御社はそういうお考えということで、
1:00:31	今理解しましたが、よろしいですね。
1:00:35	北海道電力オクデラでございます。そのように考えてございます。
1:00:45	規制庁のナグラです。
1:00:49	事業者の方でどのような考えで今こういうふうにしてるかっていう今議論はあったんですが、
1:00:56	重ね重ね、施設側でも言ってますけれども、
1:01:00	既往の審査実績をどういうふう
1:01:05	北海道値でも泊の発電所の状況に合わせてみるかというところの見方が非常に難しいかなというちょっと私自身思っていて、
1:01:13	具体的に申しますと、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:15	女川
1:01:17	女川はおそらく、内側の取水槽とかのポイントについては実は見ていなくて、基準津波算定の段階では、
1:01:27	それに対して、島根では、
1:01:31	取水槽のところまで見ています。
1:01:34	それはサイトに襲来する津波の特徴。
1:01:37	変化の割合ですね、変化の時間とかそういうものを見ているというのと、
1:01:44	あとは
1:01:46	主、取水槽、
1:01:49	水をためる構造になってるか否かとか、そういうところを見ながらやってるわけですが、ここら辺が、泊としてはどう考えるのか、これまでの審査の実績の考え方を踏まえてどういうふうにするのか。
1:02:02	というところはちょっとよく考えていただきたいなと思います。
1:02:07	いかがでしょうか。
1:02:19	北海道電力のオクデラでございます。今の観点で検討を整理させていただきます。
1:02:27	以上です。
1:02:30	規制庁のナグラです。
1:02:31	ここら辺は会合とかそういうところを通して議論をちゃんとして、
1:02:36	どうすんですかっていうことを今後詰めていくと思いますけど、見方としてはどういう見方をするのかというところは既往の審査実績をちゃんと見た上で、泊としてどうするかを考えてくださいという。
1:02:51	要は、基準津波策定の段階で、どこまで見るか定性的な考え方で、
1:02:58	評価点を決めて、それで、実際入力津波もあわせて最終的には基準津波の波源への影響というものを検討するタイミングもありますので、
1:03:08	そういったことの実績も踏まえてですね、検討していただければと思います私からは以上で。
1:03:22	規制庁タニです続いて、確認に移りたいと思います。
1:03:28	あと
1:03:30	12月の介護のコメント回答にあたる4ページの
1:03:34	この内容をちょっと確認していきたいんですけども、
1:03:40	まず、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:42	パターン1っていうのが最大になるような敷地が遠いところが最大になるようなところがあったので、
1:03:51	今回、
1:03:52	西側にさらに波源を移動させた検討、
1:03:57	日本海東縁部の範囲を網羅したような形で、検討しましたよということなんですけど、確かに
1:04:03	ここの絵に書いてある左側っていうのは、ちょっと大分寄せてますけど、寄せて網羅しましたっていうのは、説明わかるんですね西、西へ20キロ。
1:04:14	で、
1:04:14	黒字のモデル、ひらがな9の字のモデル、これ、30キロ行。
1:04:21	西移動させたら、もう本来の日本海東縁部の、
1:04:26	範囲っていうのから、もうそもそも大分こう、
1:04:29	外れていくような波源を設定されてるんですけど、これは北海道電力としては、ここまで寄せる必要があるっていう、
1:04:39	判断をされて、30キロ寄せないと。
1:04:44	余裕を持って網羅できないんだと、そういった考えで、ここまで寄せたっていうことでいいですか。
1:04:54	北海道電力の奥寺でございます。
1:04:57	116 ページ目をご覧ください。
1:05:03	116 ページ目のですね、
1:05:05	層厚の変動幅の丸の三つ目です。黒字の折り曲げ方については、以前に、逆伝播解析発電所から、
1:05:16	津波を飛ばすとどういような広がり方になるかと。
1:05:19	というようなことで、
1:05:21	折り曲げ方を逆黒字にするのか黒字にするのかといった観点でいうと、今の黒字の
1:05:30	曲げ方が発電所にとって影響が大きくあろうということで、こちらは黒字の曲げ方は、発電所への影響が大きいこの曲げ方ということで固定しております。
1:05:43	また、
1:05:45	パラメータスタディの東に寄せる西に寄せるという考え方については、
1:05:50	基本的な想定波源域から、網羅する範囲というのは十分に網羅するというのは東も西も一緒の考えであると我々として考えていることから、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:03	今回このようなところまで、
1:06:06	西、西橋についても、黒字についてもこのようなところまで、西に移動させる必要があると、当社としては判断してございます。以上です。
1:06:20	はい規制庁丹治です。はい。お考え確認しました。
1:06:24	それでちなみになんですけども、これ多分資料ちゃんと見ればわかるんですけど、4 ページのこの真ん中のこのくま区の時の、
1:06:33	くの字モデルが結局この、
1:06:36	水位変動量が一番大きかったよってということで選ばれたってというのはわかったんですけど。
1:06:42	この一番左側の 2020 キロ。
1:06:46	形を 20 キロ移動させたってこれは水位としては何メーターだったんですか。
1:06:54	補足説明資料の方にデータ集載せておりますのでその方で説明させていただきます
1:07:01	と具体的なページで言いますと、少々お待ちください。
1:07:14	75 ページお願いします。
1:07:18	違うな。
1:07:20	失礼しました。ページ違いまして、69 ページお願いします。
1:07:29	こちら、
1:07:31	比布市概略パラメータスタディの最大ケースを対象にしまして、
1:07:36	パラスターの変動としては筧モデルの移動させない基準と矩形モデルを西へ移動させたもの、黒字モデルを基準 1 としたものを、黒字モデルにし移動させたものをやっております。
1:07:49	大谷さんの聞きたいところとしましては矩形モデルを西へ移動させたものの結果ですが、
1:07:54	3 号炉取水口で言いますと 9.2 メーターになってございます。
1:07:59	これと比較しまして、黒字の西井井戸させたものが 9.37 メーターで、水位としては大きいのでこちらを、
1:08:06	と下段の、
1:08:08	これ以降のパラスターにどんどんやっていってると、というような状況でございまして。以上です。
1:08:16	説明ありがとうございました。つまりあれですね
1:08:21	この 4 ページの一番左の矩形のモデルを移動させただけでは、これまで 24 日の

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:28	9.30 っていうのは上回らなかったんだけどこの黒字になってくると、7センチほど大きくなるっていうことっていうことですね。わかりました。はい。確認できる。
1:08:45	あとこの
1:08:46	この寄せてるケースのお話として、
1:08:50	確認さ 328 ページ
1:08:54	お願いします。
1:09:06	これって前の会合で、
1:09:11	確認した点はそのパターン 1 を西側に寄せたらさらに大きくなるんじゃないのかっていうこととあわせて、何でこの、
1:09:19	3号取水炉だけ、3号取水口だけ。
1:09:23	こういったス3号取水口のさらにこの
1:09:29	防波堤のこの、
1:09:30	検討ケース何ぼでしたっけ、だけ。
1:09:34	地形モデル 1 ですか地形モデル①だけが、なんでこう遠いところの波源が、
1:09:42	大きくなるんですかっていうようなものをちょっと分析してくださいってことで、こういったことをしてくれてるんですけども、
1:09:53	これ、確かに某防波堤が、
1:09:57	防波堤の影響っていうのがよく説明できてるかなって言うてみて思ったんですけども。
1:10:03	結局金再最終的なまとめとしては、西から東へ伝播する津波は、
1:10:10	防波堤の影響で、その 3、3号の取水口で、
1:10:16	だけですね、地形モデル①だけ、
1:10:20	大きくなるんだっていうような話なんですけど、これってほら、
1:10:24	波源が遠い。
1:10:27	なぜその波源が遠かろう勝ちかかろうが、
1:10:33	津波は西から東へ伝播するっていうのは変わらない中で、
1:10:37	その何でこれだけがこう遠いところと遠い波源がこう効いてくるのかっていう、そういったことってこの中に、何か検討されてる
1:10:47	考察っていうのはあるんですか。
1:10:54	北海道電力のアオキです。
1:10:56	結論から言いますと、おそらく断層パターン 1 以外の波源に関する断層パターンについて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:04	こういった分析やっているかというところなんです資料としては、断層パターン1に特化して地形モデルの違いを整理しておりますので、
1:11:13	伝播状況に関する説明は今回は行っておりません。一方、解析結果というところで、
1:11:20	100円、
1:11:22	20ページ121ページ。
1:11:27	というところで、実際、解析した結果としては、断層パターン1の方は、
1:11:32	一番右側ですが、生変動が大きくなるというところはまとめているところですよ。
1:11:39	同じく121ページのところで、断層パターン1と2とか比較して1の方が大きいと、結果として比較してるんですが、
1:11:47	を確認したいところとしては他の断層パターンも伝播状況確認しているかというところかと考えてます。
1:11:55	規制庁丹治ですけど、そこまで言ってるつもりはなくて、
1:12:00	その考察的なこう考えてもいいんですけども、何で遠いところが、
1:12:05	ここをこういったケースだけ。
1:12:08	遠いところの波源が、
1:12:11	効いてくるんですかっていうのを、
1:12:14	ちょっと、
1:12:15	知っておきたいという要するに、他の場合でも、何か遠いところが急にこうなんか高くなったりするような、そういった傾向はないんですかっていうのをちょっと考えとして整理したくって、
1:12:27	あれ、聞いた。
1:12:30	北海道電力のちょっと考え、何でこれだけ遠いところが、
1:12:34	水位が高くなるのっていうのを知っておきたかったんですけどその辺はまだ考えが、
1:12:40	特に整理されてないってことですかね。
1:12:51	北海道電力の奥寺でございます。
1:12:53	今、傾向とか、現象御現象論については、先ほど波がどう進行して局所的に上がるというようなところ、
1:13:04	までしか考察できておりませんので、
1:13:07	の趣旨に関して、少し考えてみようと思います。
1:13:12	以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:17	作成中ではわかりました。
1:13:24	これ、あれですね。具体的にこうなんかすごくもっと検討してくださいとか言ってるつもりはなくて、今あるデータで、
1:13:32	どういったことを起こされるのかなっていうのを、知りたかったということで、確認しているのです、
1:13:38	はい。そういう、そういうことでお願いします。
1:13:55	規制庁谷です。この波源を西に寄せるっていう確認はちょっと以上にして、
1:14:00	次が大きなものとしてはあれですね
1:14:04	時間、時間の話。
1:14:07	スイテイカジ間の話なんですけど、
1:14:11	まずちょっと、
1:14:12	考え、最初の考えを確認したいんですけど、この中、1メートル以上30秒。
1:14:22	これこれ何ページでしたっけ。
1:14:32	157ページですね。
1:14:36	これってあれなんですよ。30秒。
1:14:42	1メートル以上、貯留堰の天端よりも高くなる水が来たら、30秒あれば、
1:14:51	十分に間違いなく回復するんだと。
1:14:55	天端高さまで回復するんだってというのが、26秒だから26秒で、
1:15:00	30秒あれば間違いなく、
1:15:02	回復するんだってことを言われてるってことですよ。
1:15:11	北海道電力奥寺でございますその通りです。
1:15:16	それでその条件っていうのがよくわからなかつよくよくわかんなかったな、何となく聞いててわかったんですけど。
1:15:23	この、なぜ初期貯留できない水位をマイナス4.3メートルで考えるのかっていうと、
1:15:31	これは1回、あれですか保守性を、
1:15:34	何て言うんすかね。
1:15:36	募集性のパルス状のパルスを考慮しない時間っていうので、パラスターをやってみた結果500、558秒という値があるから、
1:15:45	だから、
1:15:46	600秒で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:49	600 秒 1 回下がったときの条件を考えたってことなんですよね。
1:15:58	北海道電力のアオキです。ちょっと語弊があるかと思いますが、
1:16:04	表中の下段に貯留堰を下回る継続時間の最大値が 558 秒というところを踏まえて設定しているところになります。
1:16:15	パルスを考慮しない時間も、最終的には 558 秒になっているんですが、
1:16:20	そのパラスタの結果をやらないとわからない数字を、
1:16:24	検討の上、初期条件として入力するのはちょっと、
1:16:29	検討できないというところで、まずは%取引を下回る継続時間の最大値というところの、この 558 秒を根拠にしているところになります。
1:16:39	以上です。
1:16:43	規制庁谷です。私の聞き方が悪かったの、そういう理解してますから、まず、パルスを考慮しない時間の算定をした上でこの 558 っていうのが出てきたんだと。
1:16:54	それを踏まえて、
1:16:55	あれですよ、一時的な水位回復パルスを考慮した。
1:17:00	違う、違う違う違う、ごめんなさい。
1:17:02	ごめんなさい。
1:17:04	私の言い方が悪かったですね。
1:17:06	パルスを、
1:17:07	パルスを考慮したん。その言い方が悪かったです。
1:17:11	わかりましたよ。
1:17:14	とにかく
1:17:15	1、
1:17:16	1 回下がっている時間を出して、
1:17:19	それを踏まえてパルスを考慮しない時間の算定方法を決めてるんだっていう、そういった中、検討の流れがあるということで、
1:17:27	はい、確認できました。
1:17:42	それで、この 1 メーターっていうのは、何か、1 メーター、1 メーターならこうこういう 30 秒で戻ってくるんだよっていう話があるんですけどこの 1 メーターっていうのを、
1:17:54	この理由は何かあるんですかね。
1:18:01	北海道電力の奥寺でございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:05	今、この問題点としては、1回下がったものを回復させるってのはただ水位が上がりが下がりすればいいってもんじゃないよと、そういった趣旨のご指摘だったかと思います。
1:18:18	で、具体的に言いますと貯留時期の内部に、主水路として奥行きがあるってようなところを考えると、
1:18:26	そういったものを、水位が上がってから満たすまでには、ある程度大きな水位が必要かなというふうに考えました。
1:18:37	そういったところで1メートル程度の水位を与えて、メートル単位の水を最低限与えてですね、どのぐらいで水位が、最悪の津波
1:18:51	津波が来た際に、--4.3メートルぐらいになりますけれどもそこからどのぐらいの時間がかかるのかと算定した時に今、
1:19:01	26秒程度かかるということで、1メートルかつ30秒という、具体的な基準を設定いたしました。以上です。
1:19:14	規制庁谷です。はい。お考えは、
1:19:17	確認できたんですけど何私が聞いたかったのは何で1メートルなんで50センチでも、考えとしてはあるし2メートルでもあるし、その中で1メートルってというのは、何て言うんですかね
1:19:29	確実な形としてこう出てくるような数字が1メートルぐらいだと考えているのか、ちょっとその辺の考えを確認したかったんですけど、もう1回ちょっと何で1メートルなのかを、
1:19:41	教えてもらっていいですか。
1:19:45	北海道電力のオクデラでございます。何、基準としては、センチとか10センチとか、いろいろあると思うんですけども、
1:19:56	ある程度大きな水位がないと水位が回復していかないと、水位の回復に寄与しないというところを、
1:20:05	考えたときに、メートル単位で切りのいいところが1メートルぐらいかなと。そういったところを考えまして1メートルと設定してございます。以上です。
1:20:20	はい規制庁とあります1メートル数十センチとかはちょっと不確かさがあるとか、そういう、そういう考えで1メートルメートルオーダーのものを
1:20:31	回復。
1:20:32	する水として見込むよっていう考え。
1:20:36	ということでもいいですか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:39	北海道電力オクデラでございます。まさにそういった考えでございます。
1:20:48	規制庁のナグラです。
1:20:51	ちょっと確認なんですけど、
1:20:54	私の記憶ではPWRとカーで行った場合はこういった、
1:20:58	瘤ができた場合は瘤を無視して、
1:21:01	大局的な
1:21:04	電波特性とかそういったところも案内とかちゃんと考慮した上で、
1:21:09	この外側の大きな葉系の継続時間を取るようになってるとかっていう考え方はPWRで、
1:21:16	施行してたのかなとは思いますが、こういったスクリーニングの考え方は、パルスを考慮しない。
1:21:24	場合の考え方のスクリーニング方法っていうのは、
1:21:27	これは北海道電力オリジナルっていう理解でよろしいですか。これは今まで何か実績とか、
1:21:34	他サイトでこういう実績はあったんでしょう。
1:21:44	北海道電力オクデラでございます。こちらの方、まだ実績というのはいない状況でございます。パルス、
1:21:54	というところが指摘といいますか議論になってるのが、当社のサイトウが初めてかなと思ってございますけれども、
1:22:04	こちらの方を、
1:22:07	具体的にはですけども、中部電力さんと連携しながら考え方を整理して、広報については同様に算出しております。
1:22:19	管路解析の結果とか、サイト固有の解析結果閉弁二次元解析の結果の違いはありますけれども、算出方法の考え方については同様に整理して
1:22:32	連携して対応しております。以上です。
1:22:36	規制庁のナグラです。
1:22:38	中部電力の方は、おそらく審査状況として、基金では、こういった領域に入らないので、そういう意味では、
1:22:47	北海道電力が初めてということで、説明は北海道電力オリジナルでちゃんとしないといけないところかなと思います。
1:22:55	それで
1:22:57	ちょっと思いましたのは

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:00	やっぱり今のままだとちょっと説明弱いかなと思うんで今後多分コメントとか出るとは思いますけど、
1:23:08	やっぱり
1:23:11	津波の固有の、
1:23:13	波源から来る。
1:23:15	特性、
1:23:16	それから伝播経路からくる特性、それから敷地内の、
1:23:20	港湾んでの特性とか、
1:23:23	そういったものを総合的に考慮して感度が高い。
1:23:27	とは形の中でどういうふうパルスが生まれて、
1:23:30	そのパルスに対してどういうふうなスクリーニングをかけるのかっていうところ。
1:23:35	そういうところが全くなくして、こういうふうなすくにかけて、
1:23:38	本当に安全性に対しての考え方としていいのかどうかってのはちょっとよくわからないので、
1:23:44	ここら辺はちょっと今後ですね説明を強化すべきなのかなというふうにはちょっと感触としては感じました。
1:23:52	私としては以上です。またこれは会合等で含めて、しっかり問題意識等、規制側の問題意識があればそれを明らかにした上で、
1:24:00	会合等で追加の何ていうかな検討が必要であればコメントしていきたいというふうに考えております。私からは以上です。
1:24:13	規制庁谷です。これちょっと話が逸れてしまうんですけど、ついでにこのページにある話なので確認しておきますけど、
1:24:20	これ数字言えませんが、
1:24:22	取水可能最低水位っていうのが数字が、
1:24:27	マスキングがされてるんですよ。これマスキングいるんですかっていうのと、そのマスキングをしなきゃいけない数字を、
1:24:37	ここで持ってきて、
1:24:39	何か説明として、
1:24:42	何か、
1:24:44	必要なんだろうかっていうのをちょっと思って。
1:24:47	マスキングするんだったらするその理由はちゃんといっているんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:53	これが機密情報に属するっていうのが、何かいまいよくわかんなくて、他のこれ、どうしてもここで、
1:25:01	マスキング入りのこういった数値がいるっていうふうに考えてるんですか。
1:25:11	北海道電力のオクデラでございますが、なかなかこの、
1:25:15	マスキングが私が必要かどうかっていうのは、ここで答えづらいんですけども、ここに、
1:25:22	この取水課の最低水位が入ってないと、この説明ができるかどうかという観点から言うと、
1:25:30	必要ないのかなと、私は思っておりますので、今マスキングの有無というのが、議論になってしまうというのであれば、
1:25:42	今まで入れてないで説明しているところもございますのでこの時間の算出方法に関してはですね、
1:25:50	これの、本当に書くのか書かないのか含めて、検討したいなと思います。以上です。
1:26:01	既設のナグラです。
1:26:03	海水ポンプの取水可能最低水位に関してはこれはマスキング情報ということで他のサイトでもマスキング情報になってると思いますので、
1:26:13	もしこれ、
1:26:15	必要であればマスキングをちゃんと
1:26:18	一点鎖線でやってるんですけど、太字でなるべくわかりやすくしていただければなと思いますけど。
1:26:25	あとは
1:26:28	これが数字があった方がいいかどうかという意味では、やっぱり貯留堰の必要性をどういうふうに説明してるかにもよるんですけど、これって基準津波側でどう説明するのかって難しいところはあるんですが、
1:26:41	貯留堰の高さとの関係で、どれぐらい徴収貯水量があるかっていうことの評価を、
1:26:48	するときの評価水位をちゃんと言及するときにはこの水位の情報は必要かなというふうには思います。
1:26:55	呆れた。
1:26:58	大丈夫。
1:26:59	ちょっとここら辺の位置付けはうん。必要かどうかということも含めて検討をしてください。私自身はあっても、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:07	マスクングしてあっても自然なのかなと思いますので、そこはこのままでいいのかなというふうに私自身はちょっと思います。
1:27:14	個人的には、以上です。
1:27:23	はい規制庁タニです。引き続きなんですけれども、
1:27:29	結局この、
1:27:31	時間を、
1:27:32	再度検討したよっていう結果が 208 ページを見たらいいんですかね。
1:27:38	208 ページで全部のデータが出てて、
1:27:45	前回会合で、貯留月を下回る継続時間、これって、
1:27:52	470 秒ぐらいの数字だったものが、今回、
1:27:57	558 秒になりましたということで、これはあれですよねパラスターのパラスターをちゃんとやり直した結果と中で、
1:28:09	スクリーニングアウトとか途中でチャンピオンにならなかったものが、
1:28:14	浮上してきてます。
1:28:16	パラスターの
1:28:19	お茶ちゃんと時間に着目したらこれだけ増えたっていうことで理解していいんですかその他は特に変わってなくて、パラスタのやり方として、こういった数字が変わってるっていうことでいいんですか。
1:28:33	北海道電力のアオキです。
1:28:36	谷さんのおっしゃってる通りの見解でよろしいと考えております。この前回の会合ですと、説明繰り返になるんですが、水位変動に着目したパラスター
1:28:47	のケースに対して時間のみを算出しておりました。ですが今回は時間に着目してパラスタをしたというところで、僕の下回る継続時間の最大限がどんどん更新されて大きい数字になったと。
1:29:01	そういった理解でよろしいかと思います。以上です。
1:29:06	はい規制庁タニです。
1:29:08	そうですねそういう意味でパラスターをやってみて、やっぱりチャンピオンが選ばれていなかったっていうことでは、パラスタやってみてよかったのかなというふうにちょっと思ったりはするんですけれども。
1:29:20	あとは、このあれですよ、パルスを考慮しない時間っていうのは、前は前回
1:29:27	結果に対して保守性を取った時間を出してて 700 秒とかそういった秒が出てたんですけど、この辺は、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:29:37	しっかり
1:29:39	どういった
1:29:41	どういった時間を採用するのがいいのかっていうのを、
1:29:46	より精緻にというか、与条件をはっきりさせて検討した結果こういった前回 700 だったけど、今回 558 秒になったっていう、そういった理解でよろしいですか。
1:30:04	北海道電力のオクデラでございます。
1:30:06	前回の保守性を考慮した時間、②と言っていたのは、
1:30:12	貯留堰の容量との比較なので時間なるべく長いものを取った方がいいという観点で、
1:30:21	目視で、そのは系統を抽出していたということになります。
1:30:26	今回、パルスを考慮しない時間というものを、どこに着目しているかといえますと、
1:30:33	3号炉原子炉補機冷却海水ポンプの取水可能水位を下回る可能性の高い波源を選定したいというような目的で今考えてございますのでそういう意味で言うと、
1:30:47	なるべく、
1:30:49	ルースみたいにすの回復食うに寄与するようなものは排除したような時間を選定するのがよかろうと抽出するのがよかろうということで、そのあたりの目的等を整理した上で、
1:31:02	これが適切かなということで今回、
1:31:06	この算出方法を採用してございます。以上です。
1:31:12	はい。お考え確認しました。
1:31:14	はい。
1:31:16	藤。
1:31:18	あとはさっき猪主腓管の時間っていう話もちらっと出ましたけど、今回それ資料からは、
1:31:28	なくなってるんですかねそ、その辺ちょっとどうしてなくなったのかこれ入れてくださいって言うつもりはないんですけど。
1:31:36	前回は、
1:31:37	何、何秒だったか 7680 秒に対して十分な余裕がありますとかってそういった説明もしてたんですけど、今回は特にそれは必要ないっていうことですか。
1:32:30	規制庁谷ですけど、私の質問はなかった

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:34	7685 という数字でなくなりましたよね資料から、
1:32:39	まだ残ってますか。
1:32:41	その辺ちょっと確認させてください。
1:32:44	はい、奥村でございます。今回の資料からは削除してございます。
1:32:50	何名税のところまでいった方がよろしいでしょうか。
1:32:54	そうですね。ちょっとお考えだけちょっと確認させてください。はい。
1:32:58	貯留堰等の容量の比較を今まで我々提示してきたんですけどそちらの方は、
1:33:05	設計に関する内容だというようなやりとりが今までございましたので、
1:33:11	設計に関する内容をまた提示すると、やりとりの中で誤解を招く可能性があるなど我々として考えたので、
1:33:22	今回の資料からは削除してございます。
1:33:25	以上です。
1:33:28	はい。規制庁谷です。お考えは確認できました。
1:33:33	あれですかね
1:33:34	そういった説明しなくとも、ちゃんとこう時間で選ばれてるからとか、そういった背景も、
1:33:42	時間が最大になるようなものがちゃんと選ばれているから、もう説明をやめたとかそういう、そういう背景もあるんですか。それは特にないんですか。
1:33:55	電力オクデラでございます。先ほど、目的キー、今何を目的としてやっているかというところを説明させていただきましたけれども、
1:34:07	海水ポンプの取水可能水位を下回る可能性の高い、
1:34:13	波源の選定というところを、今の目的、今今回、
1:34:18	いろいろ考えていくところで、そういう目的がよかろうということで設定しましたので、
1:34:25	要領に関する設計上の比較っていうのは不要かなと、目的が変わりましたので、
1:34:33	そういった考えで、今回の資料は整理してございます。以上です。
1:34:57	北海道電力の藪でございます。ちょっと今の説明補足させていただいてもよろしいでしょうか。
1:35:06	今回基準津波を選定するにあたって、当社、12号3号の取水口のところに取水堰を設けていて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:16	当初はですね、先行サイトさんもそうでしょうけれども、その貯水貯留容量と、それから水位上昇下降に着目した基準津波候補の
1:35:29	波源でその取水口前面の水位がどれくらい下がるかっていうのを、
1:35:34	比較して、十分余裕があるというようなご説明で推移で、
1:35:40	波源選んでも問題ありませんというご説明を差し上げてましたけれども、
1:35:45	命題としては
1:35:48	貯留堰の容量に余裕があるかどうかではなくって、
1:35:52	貯留堰の機能を評価する上で、
1:35:56	波源選定に影響は元選定が変わらないかどうかというところを説明して欲しいというような、
1:36:04	コメントをいただいて、当初は、先ほどナグラさんからもありましたけれども
1:36:11	容量を比較するんなら山二つ分とか、三つ分とか最大の秒数で十分余裕があるという説明をすればいいのかなと思って出してたんですが、
1:36:20	それにかわる手段として今、
1:36:23	このように低下時間は取水堰がTP-4メーターを買い替えの水を切るとし、取水口の中に水が流れ込まないので、
1:36:34	それを、に着目して一番厳しい。
1:36:38	波源を選定するというので今、経過時間に着目した波源を出しているということですので、
1:36:44	最終的な目的は、今後入力津波の中で、この3号取水口をにも、
1:36:52	設定した波源に基づいて管路解析であって最終的には、補機のポンプ位置で、先ほど数字を示した乗り込み可能水位を、
1:37:03	上回る下回らないっていうことを今後説明していくことになると思うんですけどその前提としてどういう基準津波を定めるかということで、
1:37:12	いろいろな議論を経て今、こういう検討を方法が妥当だろうということでお示ししてるという、そういう状況になってございます以上です。
1:37:22	規制庁のナグラです。
1:37:25	おそらく基準地震動の策定の中で、
1:37:29	水位低下側の支配敷地の、その影響に対しての支配的な要因となるような波源の抽出に
1:37:38	という観点で、説明する限りにおいてはおそらく、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:44	そういった取水量の評価そのものについては直接言及する必要がないと。
1:37:49	いうことでこれは理解はできるんですが、一方でちょっと気になったのは、
1:37:54	超貯留堰の天端高さの設定そのものに関しては、
1:38:01	これは基準津波の策定の中の条件として今盛り込まれているので、これをどういうふうに仮定をしたかということの前提条件として、
1:38:11	参考資料でもいいのでおそらく、
1:38:16	今のところ、こういうふうな前提で、
1:38:19	貯留堰天端高さを設定していますと、その機能評価としては余裕が基本的にありますということの説明は、どっかにあった方がいいのではないかなというふうにはちょっと私自身はちょっと思いました。
1:38:34	ちょっと1点だけお聞きしたかったのは、
1:38:37	パルスを考慮しない時間っていうのは、
1:38:42	これは基準津波の波源を選定する上での、こういう評価条件を設けているのであって、実際施設側の評価をするときはこれを使うかどうかっていうのはどういうふうに考えているんでしょうか。
1:39:03	カイダ電力のオクデラでございます。ちょっと適切に答えられているかどうかかわからないですけど208ページをご覧ください。
1:39:13	208ページに横のラベルですね、区分と書いてあるところ、これ一つ一つが結局のところですけども、
1:39:24	基準津波の候補になっていくと思いますので、そういう意味で言いますとパルスを考慮しない時間で選定された波源に関しても、基準津波の候補とする予定ですので、
1:39:36	今後の検討に使っていく候補として考えてございます。以上です。
1:39:43	規制庁のナグラです。
1:39:46	私が聞いたかったのは入力津波とかそういったところの設定をした後に、
1:39:53	実際施設側の評価として、貯水量を比較するときに、
1:39:58	こういったパルスの考慮しない時間を考慮した結果をそのまま使うんですかっていう余裕があるんだったら、考慮しないっていう、今までの方法もあるんだけど、これは考慮するっていう、
1:40:10	方針で考えているっていうことで理解しましたけど、これだけど、施設側の評価としてはおそらくまたこれは、論点、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:20	今まで実績がないので、おそらくそっちの方でも論点になるのかなとは思いますが、
1:40:26	こちら辺はじゃあ使うってことですな施設側の評価でもそういうことで理解しました。
1:40:33	北海道電力数でございます。今、ナグラさんのご指摘、ご質問は、
1:40:40	基準津波の選定においてはこういう考え方を使っているけど最終的に、
1:40:46	これは基準津波候補として、入力津波の波源には使えますけど、入力津波の検討施設側の検討の中で、取水口位置の、
1:40:57	水位を具体的にどれぐらい、じゃあ、余裕があるんだということを検討するときにはまたこのパスがあるないってものを、
1:41:05	同じように見えるのかどうかと、というようなご質問でしょうか。
1:41:12	規制庁のナグラです。はい。そういう趣旨で質問しました。そこは今後検討するってことなのかなとは思いますが。
1:41:29	基準津波の選定の考え方として今こういう、
1:41:33	時間の取り方をお示ししてるということで、今後施設側への影響については今ご質問あったように、いわゆる保守的な要素のとり方時間の取り方っていうのがあると思いますので、
1:41:47	そういう方向を志向していくことになるかと考えてます。
1:41:51	以上です。
1:41:55	規制庁のナグラです。施設がどうするかってのは今後考えていただくとして、地震津波側の基準津波の選定として、こういうふうな条件を設けたときに、
1:42:06	どれぐらい
1:42:08	保守的な条件になっているのかというところの、今の現状のこの方法の保守性ということに関しては、
1:42:16	おそらく説明は必要になりますので、そこはちょっと今後検討していただければと思います。
1:42:22	これは会合で議論することかなというふうに思います論点かなと思います以上です。
1:42:35	続いて規制庁タニですけど、278 ページ。
1:42:42	お願いします。
1:42:45	結局今回、
1:42:47	時間に着目したパラメータスタディもやったので、この 278 ページで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:54	パラスター評価因子の分析ってということで、
1:42:58	こう分析をされてるっていうのわかるんですけど。
1:43:02	結局ここで、
1:43:05	何を、何を、
1:43:07	ホクレンの評価なのかっていうのがちょっとわかりにくくて。
1:43:11	結局最終的にここで
1:43:16	まとめて欲しいこととしては、北電としては、
1:43:19	こういったパラスタ。
1:43:21	の順番、こういったパラスターの方法でやったことによって、
1:43:27	ちゃんと時間が、
1:43:29	一番長いものが選ばれてるんだよってというのが、
1:43:33	そういった考えをですねど、どっかでこうちゃんとし、そう思ってるんだったらそうやって示して欲しいんですね。で、これ今見てみると、
1:43:41	例えば、貯留貯留堰を下回る継続時間の変動幅一覧っていう、上の表を見てみると、何かステップ2の1のこのアスペリティー。
1:43:53	数及び位置が、一番平均、平均値で比べていいのかってのはちょっとわからないところある。あるんですけど、
1:44:00	これが効いてくるよってというような、
1:44:02	説明なんですけど、例えば菊井氏から、
1:44:07	パラスターとしてこう影響が大きい因子から順番にやっていかなきゃいけないんじゃないのかとかそういった
1:44:15	お作法なのかその決まりというか、あると思うんですよね。その中で、こういった分析をされたことによって、
1:44:24	結局、
1:44:26	今の
1:44:27	パラメータ評価1市、
1:44:30	のこの順番だとかが、
1:44:33	って、これでいいんだって言うてるのかどうなのかっていうのが、ちょっとこの説明からわからなくて、
1:44:41	何か今お考えがあれば聞きますけど。
1:44:47	どうですか。
1:44:48	北海道電力のオクデラでございます。
1:44:53	フローの順番というところで言いますと、ここは

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:59	大きくない影響が大きいというのは、要素としてはあると思うんですけどまずは断層の、
1:45:07	一致とカスピTの位置ってというのは、基本位置として検討されていないとそれ以降の細かい例えば上縁深さがどうですかとかアスペリティの数をふやしたらどうなりますかっていう検討自体ができないので、
1:45:21	そこについては、まず基本的なパラメータを設定した後段で、細かい検討を行うというのは一般的な順番かと認識しています。
1:45:33	その上で、今回いろいろと分析していった平均値をとってるとのはばらつきが大きいというところがわかったので大きい傾向を見るために平均値をとっているんですけども、
1:45:44	例えば、上の、
1:45:47	貯留堰を下回る継続時間で言いますと、アスペリティの数及び位置というのが概略パラメータスタディの中で大きいものを選定されている。
1:45:57	或いは、パルスを考慮しない時間で言いますとStep1-1の東西方向に荒戸、
1:46:05	そういったものが一番大きいものが
1:46:08	として選定されているということで、概略パラメータスタディで大きな影響の大きいものを抽出した上で詳細パラメータスタディに移っているというところでは、
1:46:22	全体的なフローとして、妥当かということ、を言いたくてまとめとしてございます。
1:46:30	あと、ばらつきが大きいというところを先ほど、研究しましたけれども、
1:46:37	大きい要因といいますとやはり、
1:46:41	貯留堰を下回る継続時間に関しましては、
1:46:45	貯留堰の天端が今TP-4なんですけれども、そこを一時的に上回るは家があるかないかによってがらと秒数が変わってくるというところがあります。
1:46:58	またパルスを考慮しない時間に関しては先ほど、
1:47:02	T3-3を30秒以上という基準を設けて、
1:47:07	一切カット、或いは、それより上回るものは考慮されると。
1:47:13	そのあるなし、パルスがあるなしによってばらつきが非常に大きくなるということに起因してございます。
1:47:19	ほう素食うも含めて以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:25	規制庁谷です。このまともに苦労されてるっていうのはおわからわからないでもないし、概略の方が効いてきてるんだよという説明なんだっていうのもわかるんですけども。
1:47:38	これあれなんですよねと、時間に着目したパラスタも変動、水位変動量に、
1:47:45	着目したパラスタとおんなじ流れでやりましたよっていう、その
1:47:51	そういった
1:47:52	評価方法を決めたことに対して、最終的にこれやってみても、このやり方でよかったんだってどこをもってこう言ってるのかっていうのが、
1:48:03	やっぱり何か説明聞いててもよくわからないので、
1:48:07	そういうものもあるんだったら、ちゃんと資料にしていただけたらと思いますけど、今別に答え、
1:48:14	いただく必要もないですけど、何か
1:48:18	このやり方でちゃんと選べましたっていうのがるのであれば、ぜひ、
1:48:23	説明に加えていただけたらと思います
1:48:28	北海道電力オクデラでございます。結局のところ言いたかったところは、水位の方でも一緒なのですけれども、
1:48:37	詳細パラメータスタディの評価因子に関しては、概略パラメータスタディの評価因子と比べて、
1:48:47	変動幅が小さいというようなところで、
1:48:51	フローの全体的な流れは、妥当だということを言いたいということです。
1:48:57	その意味で言いますと、278 ページの
1:49:02	二つ目のポチの矢羽根の三つ目が、言いたかったことになります。
1:49:09	ちょっと言いたいことがわかりづらいというような指摘かと感じましたので、
1:49:17	表現等について、ちょっと検討させていただきます言いたかったことはこの矢羽根の三つ目のところです。以上です。
1:49:28	はい規制庁タニですわかりました。はい。お願いします。
1:49:44	規制庁サグチですけども、ちょっと
1:49:47	資料全体通して確認というか、お願いっていうのもあるかもしれないんですけど、
1:49:52	させていただきたいんですけど、まず4 ページですね。
1:49:56	一連の

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:58	本日の説明概要ということで、ずっとあるんですけどその前から含め、
1:50:03	この4ページって、
1:50:06	あくまでも追加検討ケースとして、矩形と、あと久野字型のやつを西側に寄せましたっていう、
1:50:14	ものであってその検討の結果で、右側にあるように、
1:50:20	前はこうだったんだけど、今回ちょっと変更になりましたって当然これあるんですけど、
1:50:25	これちょっと後岡井招きそうかなと思っ
1:50:29	ていて、というのは、結局この前回のモデルって、ここに今示されているモデルと全く違う。
1:50:35	モデルですよ。
1:50:37	パターン。
1:50:41	6だけ、ロッカーなんかを東に移動させた。
1:50:45	ケース。
1:50:47	なので、
1:50:48	今はあくまでもこれパターン1しか図としてはですね、左の書かれてないんで、
1:50:54	そのあたりですね、前回のモデルはこうで、今回の方ではこれですよ、この真ん中のこの黒字、黒字モデルですよ。
1:51:03	というのが何かわかるような形で、
1:51:05	していただければと思うんで、
1:51:07	です。あと5ページもそうなんですけど、結局その下回る時間に着目したパラメータスタディで、
1:51:14	波源自体は、
1:51:17	多分変わってなくてそれが208ページとかでしたっけ。
1:51:21	ただし秒数、
1:51:25	この下回る時間はちょっと変わりましたという、多分そういう、
1:51:29	ことだと思うので、この一連のこの
1:51:34	本日の説明概要といいながらやっぱりちょっと結果については少し触れていただきたい。前回から、前回の、ではこういう評価だったんだけど、今回こういう評価に変わりましたというのがあったら、
1:51:47	きちんとですね、そこはまとめた形で示していただきたいんですけど。
1:51:51	いかがですかね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:55	北海道電力のオクデラでございます。4 ページについては今おっしゃったように前회가どうであったのかっていうところを整理した上でよりわかりやすくしようと思う。
1:52:08	検討することを検討いたします。
1:52:11	あと 5 ページの方については、結局は元が変わっていないというようなところ、ことをおっしゃってたかと思うんですが、こちらの方については、
1:52:23	このページの、二つポチ目です箱書きの、
1:52:27	貯留堰を下回る継続時間と、パルスを考慮しない時間の二通りを評価して、それぞれの最大ケースを追加したってということですので新たに波源を、
1:52:40	この観点で波源を設定するという意味で、
1:52:44	今までとは異なるというような説明をさせていただいているつもりです。以上です。
1:52:51	はい。
1:52:53	サグチですけども規制庁サグチですけども、なならば、特にそう。そうですね、5 ページがもう今までとは違うものを設定しますよっていう話だったらやっぱり、
1:53:02	それは 208 ページなんなの、ちょっと後でか、これ確認をさせていただこうと思ってたんですけど。
1:53:09	という、何かやっぱり全体としてこう変わりましたよというのは、やっぱり最後に、
1:53:15	示していただきたいとこのあくまでもその本日の説明の概要のところの最後ですね。
1:53:20	ということです。
1:53:23	ごめんなさい。引き続きで、
1:53:28	140
1:53:29	8 ページです。
1:53:31	ちょっとこれはあくまでも、
1:53:33	記載内容、記載の整合性というのがそういう観点で、
1:53:37	確認をさせていただきたいんですけど。
1:53:40	148 ページの最初の水位変動量に関する評価項目ですらっとこう書かれていて、要は 2、2 行目の頭あたりに、
1:53:50	1、12 号炉取水口カッコ下降側、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:54	これ入ってるんですよね。これ、これーについてそれぞれなんですけど、あくまでも最大となる波源のパラメータスタディ結果から、
1:54:03	選定をする。
1:54:05	どう。
1:54:06	書かれているんですけど、
1:54:08	その左下の表ですね、表の中を見ると、
1:54:13	3号と12号って何か同じような形で書かれていてしかもアスタリスクで12号の、この取水口の下降側については、
1:54:23	日本海東縁部に想定される地震に伴う津波とは書いてますけど少なくとも最大ケースとして選定しないと書かれてるんですよね。
1:54:31	この辺り箱書きとことと、何か整合してないですし、じゃあなぜ、
1:54:36	箱書きでは選定をすると書きながら、
1:54:40	この表では、
1:54:43	選定しないのかという理由も、多分ここには書かれてなくて、その辺りってちょっとわからないので、少なくとも、
1:54:51	どっかにこういう理由で選定をしないんだとか、
1:54:55	それから、
1:54:56	上の箱書きとこの表の中の、これが整合するような形で少なくとも、
1:55:01	記載をしていただきたいんですけど。
1:55:18	北海道電力のオクデラでございます。148ページの趣旨なのですが、
1:55:26	箱書きの方については、先ほどからちょっと幅広という言葉を保守的とかそういう言葉を使わせていただいているんですけども、
1:55:35	下降側の観点でも12号取水口の下降側の観点でも、
1:55:41	パラメータスタディーのを波源選定では、抽出して、最初最終的に評価する地点での下に対して、
1:55:52	考慮していこうという意味で水位変動量を抽出し、と。
1:55:56	そういうような趣旨で書かせていただいております一方で、
1:56:00	表の中の米印については、12号炉が今評価対象では、取水口の下降側については、
1:56:08	今、この資料の評価対象外になりますので、
1:56:13	12号取水口下降側位置での、
1:56:18	最大記述としては選定しないという意味で書かせていただいています。趣旨は以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:56:25	はい。規制庁サグチ、これもだから、先ほどの最初の方に、この 150 ページで書かれてるこの
1:56:33	影響確認地点と、結局おんなじなんじゃないすかねっていう当然その 3 号炉なんで 12 号の取水口については、
1:56:44	これもうそもそも、
1:56:46	3 号に関係するもんじゃないので、評価点自体ではないんであれば、そう 150 ページの関係で、影響の確認をする地点なのかどうかっていう、ちょっとその、
1:56:57	辺り、ちゃんとこの今回の 3 号炉の津波として評価点はまずどこなんだというのと、
1:57:03	影響、幅広にっていう、いう
1:57:10	お答えというのがありましたけど、
1:57:13	じゃあ、その幅広で見るとその影響確認の地点なのかどうなのか。
1:57:18	そもそも必要なのかどうかのかも含めて、ちょっとやっぱり、
1:57:22	この辺りですね評価点の考え方はきちんとですね、して、
1:57:27	いただいて、それがわかるような形で、
1:57:31	記載をしていただきたいと思います
1:57:33	で、
1:57:35	それをずっと結局最後の方に行くと。
1:57:38	やっぱりですね。
1:57:41	これがよくわからなくて 190 ページとか D、D、
1:57:45	多分その、
1:57:46	評価点等、その影響確認地点、何かいろいろあるのかもしれないですけど、190 ページじゃ全部ずらっとこれ多分、あくまでもこれは、
1:57:55	パラメータスタディをやった結果としてはこうですよということが示されているんだろうなと思ったんですけど、当然そうすると、
1:58:04	一番下にその 12 号の取水口もあって、さらにですね、やっぱり、
1:58:10	よくわからないのが、
1:58:12	加工が終わって、結局、
1:58:16	貯留堰を下回る継続時間とバランスを考慮した時間と二つあって、
1:58:21	多分それは 208 ページが本当の最後のまとめとなると思うんですけど、
1:58:28	280 は、8 ページも当然これ残ってるんですけど、結局、さっき
1:58:36	いろいろ確認、
1:58:40	しながら、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:41	の中で、
1:58:43	この 208 ページの二つ。
1:58:45	下 2 段ですよねこれどういう、結局使い方、例えば、
1:58:51	あくまでも時間の長さだけで言えば、
1:58:55	一番下だけを取ってしまってもいいわけなんですけど、で、
1:59:00	ただし、健全地形モデルから、防波堤
1:59:05	の、その上考慮した地形モデルの②ですよね。だから左三つは、
1:59:10	基本的に波源としては同じもの。
1:59:12	ただ一番右のものは、波源がこれ、
1:59:16	変わってくるんですよね。潮流席を下回る継続時間のものとバランスを考慮した。
1:59:20	時間
1:59:21	でここの辺りって、
1:59:23	使い分けを、
1:59:25	するのかもしれないのか、あくまでもこれ基準津波として必要なのかどうかっていうのも当然ありますし、
1:59:32	先ほどちょっと藪さんの中で聞きになったのはこの施設がうんの話になるが、
1:59:37	出てきたんですけど、
1:59:39	そうするとですよ。
1:59:40	結局、これって、我々の中で完全に基準津波が決まるもんじゃなくて、
1:59:46	何回も施設側に行ったり来たりしながらこれ基準津波詰め、
1:59:52	決めるってそう、そういう。
1:59:54	流れになるんです
1:59:55	ちょっとこの辺りがよくわかんなくて、
1:59:58	その考え方を教えてもらっていいです
2:00:09	補足さ。
2:00:10	北海道電力藪でございます。先ほどの私の説明は、なぜここで時間を考慮した基準津波を、
2:00:19	今こういう形で選定しようとしてるかっていう観点で後、
2:00:24	それが施設側に行くんだという趣旨でちょっとお話しさせていただいております、基準津波はあくまでも取水口前面なり、
2:00:37	防潮底の前面なり、評価すべき、基準津波を選定するということだと、そういうふうに認識しておりますので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:48	行ったり来たりというような認識は、
2:00:51	ちょっと私自身は持ってないんですけども、以上でございます。
2:00:56	はい規制庁サグチです。行ったり来たりするつもりはないっていうんであればそこはわかりましたけれども、
2:01:03	何となくですね、いや、そうで結局 208 ページの二つあってこれ二つのうちの一つっていうふうに聞こえ、決められない理由っていうのは、
2:01:13	何なんですかねっていうことなんですよ。その下、下 2 段が、
2:01:18	これ 2 段そのままあるのか。
2:01:21	これ一つだけでいいのか。
2:01:22	ちょっとそこをだから教えていただきたいんです
2:01:30	北海道電力のアオキです。
2:01:33	この 208 ページで、最大ケースとして今回所貯留堰を下回る継続時間と、
2:01:39	パルスを考慮しない時間の二通りの観点から整理しております。
2:01:43	その結果として健全地形モデルから、防波堤損傷①と②については同じは形になってるんですが、
2:01:51	一番右側の③地形ですと、
2:01:54	除籍下回る継続時間とパルスを考慮しない時間、それで異なる波源が選ばれている、この異なる波源について、
2:02:03	結局のところ、下降側の評価としてどちらが、
2:02:08	当社として厳しいのかっていうところが問われているかとか。
2:02:13	思って、そういった趣旨の、
2:02:15	確認かと思えます。当社の考えとしては、
2:02:19	基準津波の選定段階では基本的に波源を幅広に、
2:02:23	基準津波として波源のケースを選ぶことで、
2:02:27	ケースが多いほど、後段の、
2:02:30	による津波の評価とかでは、
2:02:32	その検討ケースに漏れはないという考えのもと、この二つの波源を両方ともに、
2:02:38	入力津波に検討する候補として抽出していると、そういった考え方でございます。ご説明以上です。
2:02:47	はい。規制庁サグチです。以上、一応今のご説明、
2:02:52	でいうと、結局は、
2:02:53	この二つのものっていうのはもうこのままずっと最後まで、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:58	持っていく、例えば基準津波の線策定のときに、当然組み合わせ重畳が、の話が出てくるわけで、地すべり等とかのですね、
2:03:08	その結果、もし、どちらか一つに決め切れる。
2:03:13	ものになるかどうかわからないんですけど、そういう場合であってもとにかくずっとこれは最後まで残してこのふたパターン。
2:03:22	下降側についてはこれずっと最後までじゃあ引き続き持っていくと、そういう、
2:03:28	今ご説明だったんですけど、そういう理解でよろしいんですよね。
2:03:36	北海道電力オクデラでございます。認識でございますそのように考えておりました。
2:03:42	以上です。
2:03:43	はい。規制庁サグチわかりましたありがとうございます。
2:04:04	規制庁タニです。さっきのサグチさんの確認。
2:04:09	にかぶせてということなんですけどこれ今後、
2:04:14	組み合わせとかをやっていくんですけれども、ここのページに、
2:04:19	地すべりとの組み合わせとかですね、このページにある波源っていうのは、
2:04:25	今全部組み合わせの対象にするっていうことで考えてるのか。
2:04:31	ちょっとその辺、教えてください。何か今、
2:04:34	サグチさんの質問を置き、あのやりとりを聞いてると何かこれ全部組み合わせにするんだよっていうふうに私とったんですけどそれでいいんですかね。
2:04:53	江藤北海道電力のアオキです。現在 208 ページで示している波源について日本海東縁部の最大ケースというところで地震に伴う津波の、
2:05:04	江藤香田の組み合わせ検討、江藤地震以外の要因との組み合わせ検討に用いるケース。
2:05:10	という目的で衛藤波源選定しておりますと端的に言いますと、この 208 ページに書いてあるケースについて、組み合わせの検討を実施する予定です。以上です。
2:05:42	はい。今のところの考えとして確認はできました。はい。ありがとうございます。
2:05:54	規制庁のタニですけど、一応時間も過ぎてきていますので、今日のヒアリングは以上にしたいと思うんですけど、幾つかですねちょっと説明が足りないかなというところをもう少し、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:06:06	説明加えますっていうのがあったと思うんですけど、大体どれぐらいのスケジュール感で作業されますと資料提出がいつになりそうかっていうの、
2:06:16	今の雰囲気ですべて答えていただけたら、
2:06:32	北海道電力のオクデラでございます。すぐにちょっと時間の方を見積もりこれから見積もるかと思えますので、もう少しお待ちいただけますでしょうか
2:06:44	あと僕から連絡させていただきます。東京支社通して、
2:06:50	規制庁タニですはいわかりました。その資料修正を踏まえてですねそのまま会合に行くか或いはヒアリングを行うとかですかね、そういったこともまた決めていきたいと思えますので、まずは
2:07:02	資料整う時間、いつになるかっていうのがわかりましたら連絡をお願いいたします。
2:07:10	規制庁から以上なんですけど北海道電力から何かございますか。
2:07:21	北海道電力のオクデラでございます。
2:07:24	ありません。
2:07:28	規制庁のナグラです。
2:07:31	私ちょっと、会合に向けてのこういったヒアリング、今回初めて第1回目ということで、
2:07:38	出てるんですけどその時にちょっと感じた所感をお伝えしますと、
2:07:43	これまでどういうコメントを受けてそれに対して、
2:07:47	今回何を変更して、評価をして、その結果としてどういう最終的な評価の結果になるのか従来とのその差分を、
2:07:57	どういうふうを示すかっていうところについてはちょっと、
2:08:00	何て言うのかな、わかりにくいところがちょっと多いと思えますので、もう少し差分を明確化していただきたいなど、はっきりわかるようにしていただきたいということをちょっと強調して、
2:08:12	言いたいと思えます。
2:08:14	これを怠るとどうなるかっていうのは、施設側でもおいおい。大西で時々あるんですが、
2:08:20	要は結果を深山見え誤るということになってしまって誤解を生むと。
2:08:27	そうすると出戻りが非常に多くなりますので、そういう意味で、まず第1回目のヒアリングで、ちょっと重視していただきたいのは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:08:37	今回、そのコメントを受けてもしくはそれ以外の状況も変わったことを含めて、江藤条件が何が変わったのか。
2:08:45	何を書いたのか、それに対して結果がどうなったのか。
2:08:50	最終的な評価にどう影響するのか、そこら辺ですね今までの流れの中で説明してきたとしても、そこんところは明確になるように、1回1回明確になるように、
2:09:01	資料作っていただきたいというふうに思います。
2:09:03	これはちょっとお願いベースの話です。以上です。
2:09:19	北海道電力のオクデラでございます。
2:09:23	わかりやすく、資料を取りまとめるというのは、意識しているつもりでございますけれども、今、コメントも踏まえて、そういう観点で、
2:09:34	検討していきたいと思います。趣旨は理解できましたので、
2:09:39	以上です。
2:09:43	はい規制庁タニです。それでは、ヒアリングを終わりにします。お疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。